

3/23 福井

受診遅れで63人死亡 本県1人

経済的な理由で国民健康保険の保険料が払えずに「無保険」状態になつたり、保険証を持つていも医療費の窓口負担分が払えなかつたりしたために受診が遅れ、死亡した人が2015年に本県の1人を含む32都道府県で63人に上つたことが22日、全日本民主医療機関連合会（民医連）の調査で分かった。無職や非正規労働者が多く、家族全員が無保険という世帯もあつた。

調査は民医連に加盟する病院と診療所計646施設が対象。担当者は「全体からみれば冰山の一角。働き盛りの世代も増えており、行政による早急な対策が必要だ」と

民医連調査 無保険、窓口負担分払えず

している。

死した人のうち、無保険が22人。保険料を滞納し全額自己負担となる「資格証明書」の発行を受けたのは6人、滞納で有効期間が短くなる「短期保険証」を持っていたのは8人だった。残る27人は、保険証はあるが自己負担分の医療費が払えない人など。

本県で死亡したのは70代男性。

診察した福井市の光陽生協クリニックによると、保険証を持っていたものの医療費が払えず、結腸がんで亡くなつた。病院に来たときには既に末期の症状で、治療ができる状況ではなかつた。それまで男性は病院にかかっていなかつたという。